

大崎市の産業を元気にして雇用を創出します

大崎市雇用創造協議会が活動開始

商工振興課商工振興係 ☎23-7091

大崎市雇用創造協議会は、不景気により低迷する雇用情勢を、地域経済団体とともに盛り上げ、「大崎市に雇用と活気を」生み出すことを目的に設立された協議会です。雇用創造協議会では、平成二十四年度までに「食と農」「ものづくり」「観光」の分野において雇用拡大、人材育成、就職促進のためのセミナーを展開する「ずっとおさき・いつかはおおさき実現プロジェクト」を立案し、この計画が、厚生労働省の「地域雇用創造推進事業」に、県内で初めて採択されました。地域雇用創造推進事業とは、雇用失業情勢の厳しい地域で、雇用創出に向けた意欲が高い地域において自治体の産業振興策との連携により、雇用創出に自発的に取り組む協議会が提案した雇用対策にかかる事業の中から、コンテスト方式で雇用創出効果が高いものを選び、厚生労働省と委託契約を締結して実施する事業のことです。



大崎市の「産業振興」「雇用拡大」で「地域活性化」を目指します！

事業拡大を促し雇用拡大へ！

- ・大崎の統一ブランド化の推進
- ・企業体力の底上げと経営の提案
- ・従業員のスキルアップのための講座
- ・インターネットを活用した販路拡大の提案
- ・新たな雇用の提案

社会に求められる人材育成！

- ・企業が求める人材(マナー、技能)の育成
- ・実技研修により即戦力となる人材の育成
- ・必要となる資格の指導支援
- ・次世代の地域労働力の創出
- ・起業家の支援

食と農

- ・ブランド力強化
- ・販売力強化
- ・担い手後継者育成

ものづくり

- ・企業体力競争力強化
- ・付加価値の拡大
- ・即戦力のある人材育成

観光

- ・誘客、滞留力のアップ
- ・販売力強化
- ・担い手後継者育成

大崎市雇用創造協議会

これから雇用創造協議会が主体となって、市内の企業やそこで働く人、これから起業しようと考えている人のためにセミナーや各種講座を開催して、「技にたけ・知恵に満ちた人材」を育成し、大崎市の地域資源を発展、創造することにより大崎市の産業振興と雇用拡大を目指します。

●本年度開催セミナー●

ホームページスタートアップ講座

内容 ウェブ・マーケティング(インターネットを活用した商業手法)、MTOS(インターネットから無料で利用できるプログラム)を使ったホームページ作成および管理の方法

期間 2月16日(水)・18日(金)・26日(水)～28日(金) 9時～16時 全5回

場所 大崎地域職業訓練センター

対象 市内の企業、市内で起業を考えている人(求職者を含む)

受講料 無料

定員 10人

申込 2月10日(水)までに電話またはファクスで申し込み

就活応援セミナー～ものづくり編～

内容 若年求職者向けのビジネスマナー、上手にコミュニケーションをとるための手法、ものづくりに関する知識、就職活動に必要な知識ほか

期間 3月15日(水)～17日(金)、22日(水)～24日(金) 9時30分～16時 全6回

場所 リオーネふるかわ カルチャーホールC

対象 大崎市在住の求職者、大崎市で就職を希望する人

受講料 無料

定員 30人

申込 3月4日(金)までに電話またはファクスで申し込み

【申し込み・問い合わせ】大崎市雇用創造協議会 ☎23-7091 ☎23-7578

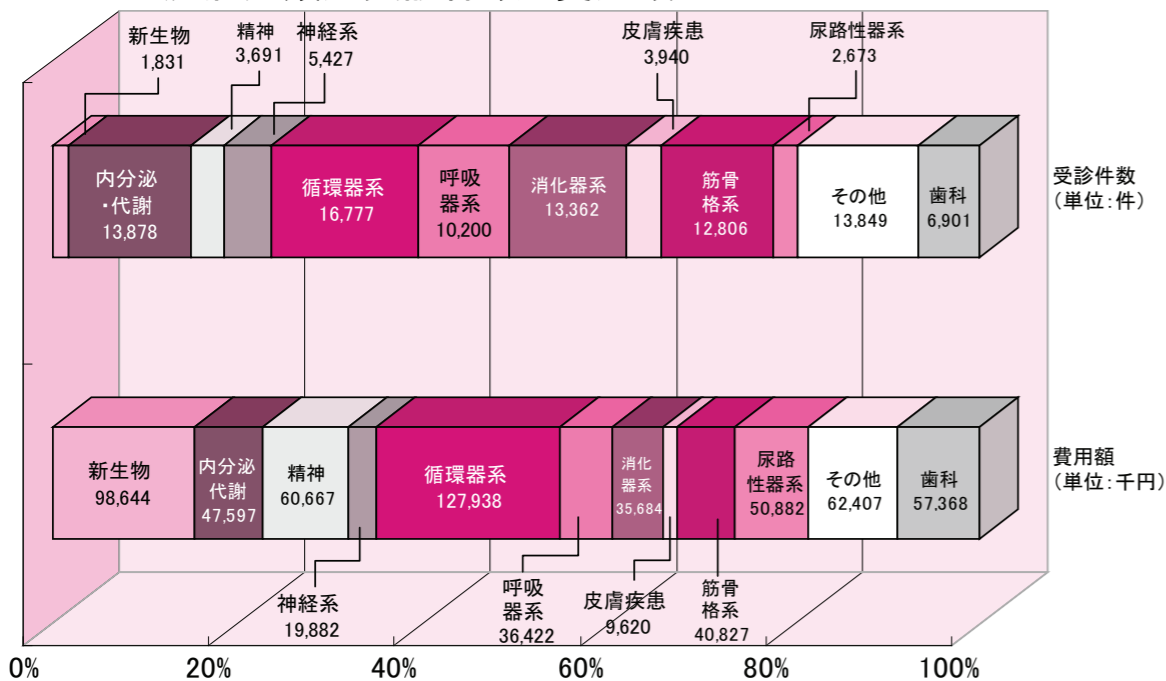


国民健康保険

国民健康保険から見た市民の疾病状況

保険給付課国民健康保険担当 ☎23-6051

疾病分類別受診件数と費用額(平成22年5月診療分)



医療費を疾病分類別に見ると、高血圧・心疾患・脳血管疾患など循環器系の疾患が件数・費用額ともに最も高い割合合いとなっています。

次いで件数では、糖尿病・高脂血症・甲状腺障害など内分泌・代謝、消化器系の順に、費用額では、がん・リンパ腫・白血病などの新生物、精神の順となっています。

この統計結果からも分かるように、日ごろの生活習慣が要因と考えられる「生活習慣病」といわれる病気が多くを占めています。

これらは食生活や運動、休養、喫煙、飲酒などのふだんの生活習慣を見直すことで予防できます。

規則正しい生活習慣を身に付け、健康維持に留意することが健康寿命を延ばし、ひいては国保の健全な財政運営にもつながります。日ごろから一人ひとりが健康づくりに心がけましょう。

また、定期的に特定健診などを受け、疾病の早期発見・早期治療に努めましょう。

市長コラム 天・地・人

あつぱれ！古川学園女子バレー



一月九日、東京体育館で春校バレーの決勝戦の熱戦が展開されておりました。

ちょうど同じ時刻に、大崎市民会館で行われた成人式に出席していた私は、式辞に先立ち新成人に呼びかけ「古川学園チャチャチャ」「古川学園頑張れ！」の応援コールを行いました。

結果は東九州龍谷(大分)に1対3で逆転負けし、インターハイ、国体に続く夢の同一年度三冠達成こそ逸したものの、堂々の準優勝でした。

古川学園の活躍は大崎市の名を全国にとどろかせ、選手たちのさわやかなプレーは市民に夢と励ましを与えてくれました。「素晴らしい準優勝」を市民あげて喜びたいと思います。

選手の皆さんご苦勞様でした。新たな頂点をめざして再スタートされることを期待しております。

バレーボールと私の衝撃

的な出会は、一九六四年東京オリンピックで、回転レシーブを駆使し、金メダルを獲得した「東洋の魔女」日本女子チームの活躍を目の当たりにしたことでした。バレーボールは、アメリカの体育指導員ウィリアム・モーガンによって一八九五年に考案され、誰でも気軽に楽しめるスポーツとして全世界に広まりました。日本には一九一三年に紹介され、世界に通じる日本のお家芸スポーツとして、老若男女が親しめる大衆スポーツとして定着、成熟してまいりました。大崎はバレーボールのメッカとして競技人口も広く厚い。各種大会も開催され、市民のバレーボール熱も高い。今回の古川学園の活躍を励みに、大崎のバレーボールの新たな歴史が創造されていくことを衷心より念じております。

大崎市長 伊藤康志